

「世の中にないものが生んだ」POWER TAG

ものへの挑戦

株式会社マトリックス

「コンレベルのタイム計測

現在、国内の自転車レースで圧倒的なシェアを誇り、幅広く使用されているゴールスプリント自動計測システムがある。マトリックスが開発したアクティブタグ、「POWER TAG」だ。

ゴール地点にゴールマットを敷いて、磁界（トリガーエリア）をつくり、タグを付けた競技者がそこを通過すると、自動的に計測機にデータが送られてくる仕組みだ。各競技者の周回タイム、ゴールタイム等を、たとえ競技者が集団でゴールに入ってきて、コンマレベルのタイムまで正確かつ自動的に計測できるシステムである。

同社は、昭和55年にソフトウェアの開発会社としてスタートした。当初は業務用アプリケーションソフトの受託開発を手がけていたが、その後、オリジナルアプリケーションソフトの開発にも着手。その中で、「自転車レースのゴールスプリントを計測できるシステムをつくれなにか」という依頼が舞い込んだのだ。

未知の分野ではあったものの、辻義光社長の信条であり社是でもある

「世の中にないものへの挑戦」、「失敗を恐れずチャレンジ」の言葉にのっとり、数社共同で開発に乗り出した。そうして、苦労と失敗の連続だった6年間を経て、平成11年にPOWER TAGが完成する。

現在では自転車レースのみならず、マラソン、トライアスロン、カヌー等、様々な競技で採用され、各競技の公正さと進行を支える要となっている。

「トリガーD方式」で 社会で役立つタグに進化

POWER TAGの用途は各種レース競技でのタイム計測だけにとどまらない。一般社会にもPOWER TAGを広く浸透させるべく開発したのが「トリガーD方式」だ。2点の磁界で計測するため、タグの進行方向が明らかになり、ものの「出」と「入」が計測可能になったのだ。

このシステムの確立によって「登下校メール通知システム」、「製品位置確認システム」、「赤ちゃん連れ去り警報システム」等が実現し、実際それぞれ現場で活用され始めている。また、他社のアクティブタグは、常に電波を間欠発信しているのに対し、POWER TAGは、トリガーエリアの磁界に滞在している間のみ電波を発信するので、タグの電池寿命が長持ちするのだ。

これらシステムの開発を支えるのが「技術者集団」である社員たち。フレックス制を採用しており、服装も自由。仕事に関しても「自分でやりなさい」が方針で、各社員に進め方、取り組み方は任せている。ただ、

その代わり求められるのが「結果」。教えられることを待つては、当然、結果を出すことはできないし、そもそも「そういう方は採用しない」という。こうした、厳しくもやりがいのある環境こそが、「技術者集団」であるマトリックスの基盤となっているのであろう。

今後は、「直売は販売会社任せ等として、より技術を高めることに集中していきたい」という。生まれ持った技術者の血がそれを求めているに違いない。

株式会社マトリックス

Company Profile

住所／〒530-0047
大阪府大阪市北区西天満3-13-20
ASビル6F
創業／昭和55年9月
設立／昭和60年5月
資本金／5,215万円
従業員／44名（平成21年1月現在）
TEL／06-6363-5901
FAX／06-6363-5904

全国
20関西
20大阪
18

安田 豊さん
企画部企画課次長

主な事業内容

アクティブ型IC
タグ開発・製造・
販売、アナログ・
デジタル回路開
発・設計、自転
車・マラソンレ
ース計測業務受
託、レースイベ
ント企画・開催 等

<http://www.matrix-inc.co.jp/>